

2012.04.29 三頭山新歓山行報告書

担当: M2 荒川 晶

①参加者(敬称略)

M3 岡本 M2 荒川 C2 池邊 C1 木村 (4名)

②コースタイム

立川 07:05～08:28 奥多摩 09:20～09:45 小河内神社 09:50～10:50 イヨ山 11:00～ヌカザス山 11:40～12:50 三頭山 13:30～14:40 檜寄山 14:45～仲の平バス停付近 15:30

③本文

本年度は多くの新入生に日程を合わせられるように新歓山行を 2 回計画したが、結局日程の都合もあり来られた新入生は木村君 1 名のみであった。イベントへの勧誘、日程の調整等については、来年以降の課題としたい。

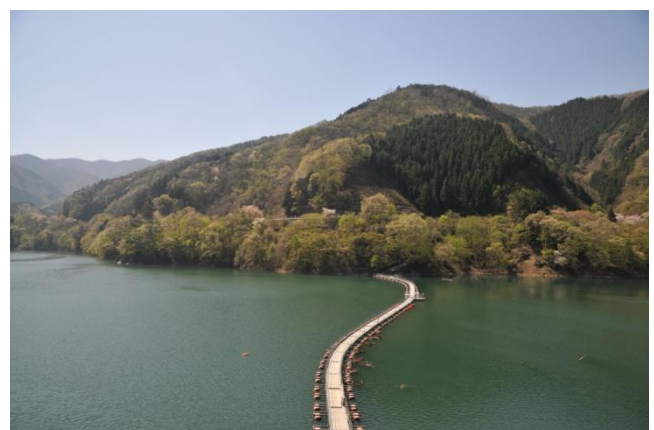
当日は天気にも恵まれ、先週のように列車のダイヤが乱れることもなく、予定通りの時刻に全員が集集合することが出来た。しかし、奥多摩駅まで普通列車に乗り、バスに乗り換えようとするも、連休の中日ともありバス停は大混雑、乗車予定の鴨沢西行きのバスは全て出払ってしまい、戻ってくるまでおよそ 1 時間、待ちぼうけを食らってしまった。

(右写真: 登山客で大混雑の奥多摩駅バス乗り場)



ようやく乗車出来たバスで小河内神社(おごうちじんじゃ)まで向かう。乗客の多くは途中の奥多摩湖で下車していたので、日帰り装備の人が多くことを考え合わせても、近くの六ツ石山や御前山に登る人が多いのではないと思われる。

下車後は軽い準備運動をしてスタート。



ダム湖を上写真のドラム缶橋で横断し、対岸の道路を少し歩いて登山道へ入る。

登山道に入ってからはずぐに、尾根筋の急登が続く中を、少しずつ高度を稼ぎながらゆっくりと登っていく。

汗ばむぐらいの天候の中、途中小休止を挟みながら、1時間ほどでイヨ山に到着。(右写真)道標に「イヨ山」と書かれたテープが貼り付けられているだけの簡素な山頂ではあったが、登山者にとっては途中のランドマークとなるのでありがたい。ここまででおよそ 400m 近く高度を稼いだことになる。その後は登り下りを時々繰り返しつつ、ガレ場や小さな岩場などもある痩せた尾根を通りながら(右下写真)、ヌカザス山を経て入小沢の峰付近で再び休憩。



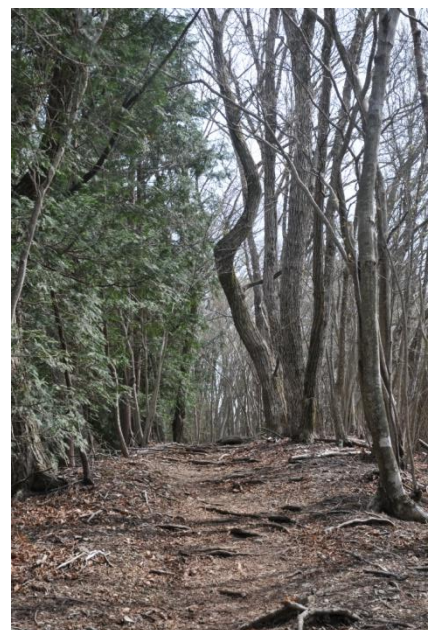
このあたりまで来るとようやく登りも一段落し、少し登りのペースも楽になったな、と感じられ、山頂もその姿を現し、目標が近付いたことを実感。

さらに 30 分ほど歩き、12:50 ごろに三頭山の山頂に到着することが出来た。標準コースタイムは 3 時間 30 分の所をおよそ 3 時間程で踏破できた。思った以上に登りがきつく、本谷橋から涸沢までの登りに匹敵するようなハードなコースが続いたが、新入生の木村くん、部の山行への参加は 2 回目という池邊くんともよく頑張ってくれたように思う。



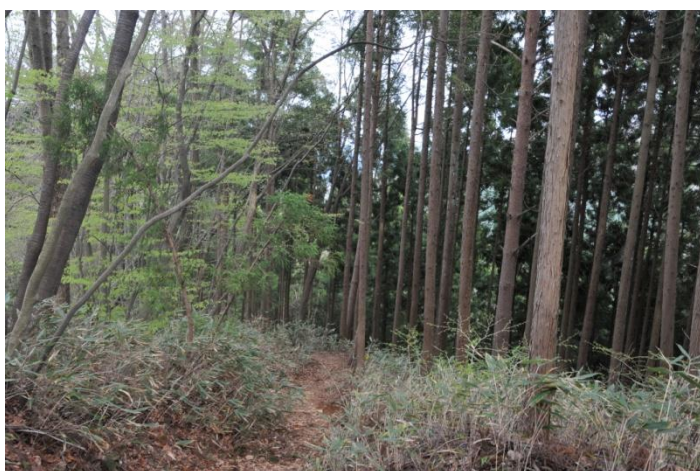
山頂付近で昼食をとってゆっくりして、記念撮影(左写真: 左より荒川・池邊・木村・岡本)を行った後は、槇寄山を目指して下山を開始する。

登りは途中落葉樹が多く、まだ新芽が出ていないため日光が直接差し込んで暑く感じられたが、山頂を過ぎると綺麗に手入れされたスギ林の中を心地よく歩くことが出来た。またこの区間は東京都と山梨県との県境を歩くのだが、東京都側はスギ林、山梨県側は広葉樹、と植生がはっきりと分かれていたのも興味深かった。(右写真)



およそ1時間程歩いて、槇寄山に到着。

ここではちょうど良い具合に斜面が伐採されており、付近の山並みを眺めることが出来た。遠方には富士山も見えるようだが、この日は黄砂の影響が霞がひどく、その姿を拝むことはできなかった。(右写真)



小休止を取って、いよいよ下山を開始する。山頂付近ではまだ新緑は見られなかったが、この標高ぐらいになると、少しずつ緑も見られるようになり、目の保養になった。(左写真)

歩きやすい下り坂を小一時間ほど歩くと、登山道もいよいよ終わり、民家の軒先に出た。

ここでこの後別の予定が控えているという岡本さんは先行のバスで下山、残り3人はこの後、15分ほど歩いたところにある温泉「数馬の湯」(右写真)にてゆっくりと汗を流した後、武蔵五日市へと抜けて無事に下山することが出来た。



連休中で混雑の予想された時期ではあったが、道中で出会った登山者の数はそれほど多くもなく、快適な山歩きを楽しむことが出来た。日帰り山行にしてはコースタイムも長く、急登も多くきついコースであったが、C1の木村君、C2の池邊君も楽しんできたようで、良い山行とすることが出来たように思う。